

葦 森 の 風

2学期を振り返って 長い2学期も終わり、平成26年が過ぎようとしています。みなさんにとって、これから迎える平成27年、そして3学期を充実させ、喜びの大きいものにしていくために、今学期を振り返ってみましょう。8月20日の豪雨災害で、隣の広島市では、中学生を含む74名の尊い生命が失われた悲報から始まった2学期でした。また、9月27日には岐阜県の御嶽山が水蒸気爆発を起こし噴火し、57名の方が亡くなるという、痛ましい災害が続きました。また、反面嬉しいニュースとして、赤崎 勇終身教授(名城大学)、天野 浩教授(名古屋大学)、中村 修二教授(カリフォルニア大学)の3名の方が、ノーベル物理学賞を受賞されました。スポーツ界では、錦織圭選手が全米オープンテニスで、日本人初の準優勝を飾り、スケート界では、羽生 結弦選手のソチ五輪金メダルや、11月の中国杯で、練習中に衝突し、出血等の大けがを負いながらも、最後まで演技をやり通した姿が感動的でした。こういった、2学期の様々な報道もありましたが、学校生活を通して、皆さん一人一人の記憶に残るものはどのようなことでしたか。嬉しいことも、辛いことも、成長していくためには、どれも大切な糧になるものだと思います。

写真で振り返ってみましょう



生徒会秘密特訓



文化祭名演技



2年マナー講習会



小学生に読み聞かせ



生徒会立会演説



1年国語故事の学習



3年地域学習発表会



3年進路説明会



1年介護疑似体験



C D 組市交流会



3年保育実習



2年職場体験-空港



3年進路面接練習



小学生部活動仮入部



岡フィル出前コンサート

運営協議会会長 後藤晴美氏のご挨拶・提言

「危険認識能力」「危険回避能力」について

足守中学校運営協議会会長 後藤 晴美

昨今、責任回避、または責任転嫁傾向が強くなったせい、ちょっと危険な場面や、事故につながりかねない事については、禁止または回避する傾向が強くなってきているように思われる。これは、ひとつには、何かことが起これば他人のせいにして、最悪の場合訴訟になったりし、信頼関係の薄れた社会にも原因があるだろう。

水泳の飛び込み全面禁止もその一例といえよう。私たちが、子供の頃は自然も豊かで川もきれいであったので、夏は毎日川で泳いでいた。そこでは飛び込みが一番スリルのある痛快な遊び方であった。今のように飛び込みずプールの壁をけてスタートするのは、なんともみじめに思えてしかたがない。禁止する前に「こうしたら危ないから気を付けよう」とか「どう使えば危なくないか」といった安全指導を徹底するのが先であろう。水泳に限らず他の運動でも事故や怪我の心配は少なからず付きまとうと思う。また、日常の生活でも危険な場面は少なくない。外に出れば交通事故の心配があり、工事現場等では落下物に気を付けなければならない。とにかく、自分で事故にあわないように気をつけるのが一番である。もっとも今の時代気を付けていても事故にあうこともあると思うが・・・もし、そのように徹底した指導をしていても、それを守らず危険行為をして、事故にあたり怪我をしたりした場合は、自己責任の認識をしっかりと持つべきである。例えば交通規則を守らず、安全運転を怠り、事故を起こした場合の自己責任がそうである。つまり、学校や家庭地域で安全な暮らし方を教え、危険防止に努め、子供たちに何が危険でどうしたら防げるか、いろいろな経験もさせながら身につけさせなければならない。水泳の達人に三年間講義だけ受けても、すぐ泳ぐことはできない。泳ぐには水につかって水を飲んで苦しさを体験して泳げるようになる。すぐ禁止したり駄目だと取り除いたりしてしまっただけでは、真に身につくものにはならないと思うのである。

